

第246回原医研セミナー

第11回放射線災害・医科学研究 機構・拠点研究推進ミーティング

以下のとおり開催いたしますので、ご参加くださいますよう、ご案内いたします。

開催日時：2023年7月25日（火）17時30分～

開催方法：オンライン

接続先：Zoom(ミーティング)ID：890 6191 5257

Zoom URL：

<https://us02web.zoom.us/j/89061915257?pwd=Uk93L2JWWDJ3dnFkYmkvSjFGN21DZz09>

Zoom パスワード：538773（上記 URL をクリックして参加する場合は入力不要です）

タイトル：オートファジーによるゲノム安定性の維持機構

発表者：長崎大学 原爆後障害医療研究所 幹細胞生物学 助教 川端 剛先生

オートファジーは細胞内の様々な因子を分解し、細胞と組織の恒常性を維持している。オートファジーはゲノム安定性を維持してがんを防ぐと考えられているが、そのメカニズムは不明点が多い。今回我々は、DNA 複製ストレスに起因するゲノム不安定性をオートファジーが防ぐ機構を明らかとした。オートファジーの異常はエピジェネティクス情報を変化させ、それに伴い DNA 修復／複製関連タンパク質の機能低下とゲノム情報の変化を引き起こす事が明らかとなった。さらに特定のがん遺伝子の発現低下が見られ、オートファジーの異常が発がんにつながる一連の流れが示された。

タイトル：参加型健康教育「クリエイティブヘルス」を経験した教員の視点

発表者：福島県立医科大学 総合科学教育研究センター 大学院生 本田香織先生

震災年に小学校に入学した子どもは成人（18才）しており、自身が親になっている人もいる。福島県内の女子大学生を対象とした調査によると、放射線による健康影響への不安は将来の妊娠出産に対する態度と関連していた(Int J Environ Res Public Health 2018; 15: 2411)。次世代への情報の伝達は、健康危機における重要な課題である。そこで、被災地域子ども達と復興について演劇手法を用いて考える英国の活動を、福島県内の小学校ではじめた(放射線災害・医科学研究拠点共同利用・共同研究)。その後、演劇手法 (ACT) に栄養 (FOOD) と健康 (BODY) を加えて三部構成にしたクリエイティブヘルス (CH) 事業を実施している (Int J Environ Res Public Health 2022; 19: 3417)。CHとは、音楽や絵画、ダンスなど創造性の高い活動を通して対象者の主体的な問題解決を促す、英国で推進されている参加型の健康教育手法である。本報告ではCH活動の実際と、この活動を体験した教員から収集した意見を質的に分析した結果を紹介する。